

岩国からも通所できます



利用者（中央）やスタッフと運動スタジオで体を動かす益満さん（右端）

大竹に生活介護事業所 運動スタジオ備え付け

障害がある子どもが安心して遊べる環境づくりに取り組む岩国市内での

市民団体の実践を生かし、中心メンバーの保護者が、県境を接する隣町の大竹市に生活介護事業所を開いた。運動スタジオを備え付け、利用者の体力アップを後押しする。岩国市内をはじめ、他のまちから通うことができる。

岩国市の市民団体「遊びと育ちのインクルーシブ架け橋会」の益満えりか事務局長（38）が1日、JR大竹駅近くの大竹市新町に開いた。「障がい

者ダイサービス エンジョイ」と名付け、日曜日以外の午前10時～午後5時に開く。約100平方メートルのスペースでゲームや折り紙を楽しむ傍ら、隣接の建物約90平方メートルを運動スタジオに使う。定員は一日20人で、18歳以上の利用を募っている。

障害がある人たちが安心して通えるジムが少ないのが、開設のきっかけ。益満さん自らが、有酸素や筋力強化を組み合わせた体操のインストラクターの資格を取得。看護師2人を含むスタッフ5人と共に、一人一人にあったプログラムを提供する。利用者の一人、吉本代佑さん（31）は「大竹市は『ここに来るようになり、夜よく寝られるようになった。これからも通いたい』と話す。

益満さんは、障害がある子を持つ母親としての経験を踏まえ「多くの利用者や家族が楽しく過ごせる施設に」と思い描く。エンジョイ ☎ 0827（28）0126。

（川村奈菜）

